

Nihongo Network News

2000.3.3発行

No. 25

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター 気付 ☎03-3235-1171

ネットワーク活動で培ったノウハウを活かし 各地の日本語ボランティア講習会の 企画に協力

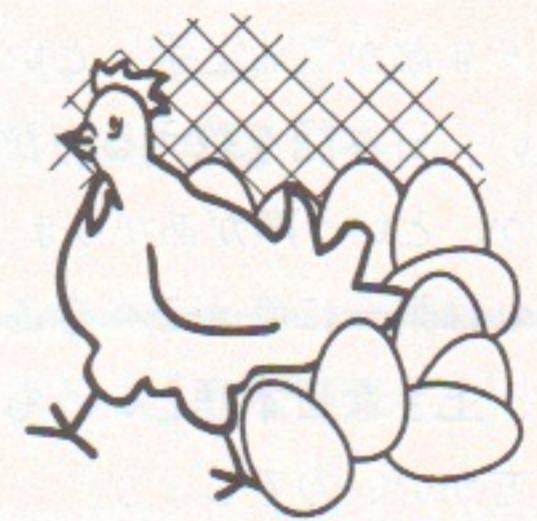
昨年暮れから大田区立山王会館では「日本語ボランティアステップアップ講座」～ボランティアとしての日本語支援とは～が開かれています。参加者は大田区内で日本語ボランティア活動をしている人たちで、ボランティア活動について改めて考えたり、知らない言葉を習う苦勞を味わったり、日本語学習支援のヒントをつかんだり、と毎週1回、夜遅くまで熱心に学んでいます。この講座は、東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)が大田区の要請に応じて、カリキュラムの作成、および講師の選定に協力したものです。

このようにTNVNは、この3～4年の間、大田区のほか、港区、東大和市、羽村市、所沢市など、各地での講習会開催に協力してきました。

発足してまもなく、1994年から1996年まで、TNVNは活動目的の一つ「日本語ボランティアの資質向上」を図るために、また日本語ボランティア講習

会のモデルとなるものを作るために、年2回ずつ講習会を実施しました。そして、その経験から知識や方法、人材情報など、多くの財産を蓄えることができ、また望ましい講習会の形も見えてきました。これらは、当初の目的通り必要とするところ全てに提供されなければならないものです。

報告書「ボランティア日本語教室の現状と日本語ボランティアの意識調査」(1998年3月発行)の「日本語ボランティア講習会の現状」に見られるように、各地で開かれている講習会には大きく分けてふたつのタイプがあり、日本語教授法に片寄った講習



会はしばしば頭の固いボランティアを作りだしているようです。一方、学習者の立場を知り、異文化を理解し、その上で日本語学習支援の仕方を考える講習会は、ボランティア日本語教室の活動をあたたかいものになっています。

これからも、日本語ボランティア活動にとって望ましい講習会を実施するべく、TNVNに集まった情報や経験を積極的に活用してもらいたいと思っています。

(林川 玲子)

TNVN 総会が4月22日(土)に開催されます

この3月でTNVNの活動及び会計年度も終わることから、4月22日(土)14:00より飯田橋の東京ボランティア・市民活動センターでTNVN総会を開催することになりました。1999年度の活動・会計報告、新年度役員の選出、2000年度の活動・会計案の検討等の後、出席者による交流会を予定しています。

正会員(団体会員)のみならずには改めて総会のご案内をいたしますが、多くの会員の方々のご出席をお待ちしています。

交 差 点

ネットワーク情報交換会レポート

第11回ネットワーク情報交換会

日時：2000年1月21日(金) 18:00~20:00

会場：東京ボランティア・市民活動センター 会議室

日本語の上手な話し方

今回は「日本語の上手な話し方」ということをテーマに話し合ってみました。そんななかで「上手」というよりも「正しい」日本語を教える方が先なのではないか、という声があがりました。確かに、それは第一に考えるべきことで、その上で、上手な日本語というものを教えていく方がいいのでしょうか。

しかし、上手な日本語とは一体何なのだろうか、という点が疑問になります。出席されたみなさんからいろいろな意見が出てきました。丁寧語を教えるのはいいが、普通の言葉でないとうまく会話が成り立たない場合があるので、上手な日本語とは、丁寧体と普通体の使い分けができることであるとか、職場で使う言葉と日常生活で使う言葉の使い分けであるとか、目上と目下に対する言葉の使い分けという点からやはり敬語であろうとか、それぞれにみなさんがいろいろと考えているところがあるようです。こうして、みなさんの意見を聞いていると、「使い分け」ということが共通点としてあげられます。上手な日本語とは、その場や相手にあわせて、正しく使い分けができることなのではないでしょうか。

具体的にあげてみると、外国人労働者の多い職場、たとえば工場の現場やスナック、バーなどで使う言葉は、日常生活ではかみ合わないこともあります。しかし、職場ではいちいち敬語を使ってはいられないでしょう。ただ、乱暴な日本語を覚えてしまった外国人に丁寧な言葉を教えるのは大変難しいという感想も出ま

した。また、若い人が使う言葉と普通の言葉の違いや、男言葉と女言葉との違い。実際、国際結婚で日本に来た女性は、まず最初にご主人の使う日本語を覚えてしまうため、男言葉の人がいます。また、学校などで、先生に対して使う敬語と普通の言葉、また、子供に対して使う言葉など、日本語というのはさまざまな場面や話す相手で言葉を使い分けなければならない言語なのだということを改めて感じました。

また、日本語特有のあいまい表現や社交辞令などは、教えるのがとても難しいものですが、日本語ボランティアは学習者に決して社交辞令を使ってはいけない、という共通認識を得ました。

上下関係を表す言葉は、教えるのが難しく、学ぶ方も難しいようですが、韓国の人たちは、上下関係の意識が強いので、こうした敬語の使い方はすぐにわかってもらえるようです。留学生に対しても、遠慮なく注意してあげる方が親切だといえるようです。ただ、上下関係を表わす言葉や上手な日本語を伝えたくても、それを学習者が必要と意識しない限

り、なかなか理解してはもらえず、効果は上がりません。そこが難しい点です。そこで、導入として、まず身近なことから入っていくのがいいようです。そして、場面場面での言い表し方をひとつひとつ教えていくしかないのではないのでしょうか。

発音も、民族によってそれぞれに不得意なものがあるので、文字にふりがなをつけてあげることが、間違いを防ぐよい手段になるようです。

どちらを使ってもいいという言葉もたくさんありますが、ボランティアで一応のガイドラインというものを決めておいた方がいいでしょう。

基本的には、おかしい所を直してあげるのが、上手な日本語の話し方につながるように思います。

今回出席した江戸川ユニオン日本語教室の松本耕児さんが「みんなに可愛がられるような日本語を教えている」と言っていました。確かにそのようです。そのためには、やはり、上手な日本語の使い方を、つまり相手によって使い分けができるように教えていかなければならないのかもしれない。

次回のネットワーク情報交換会のご案内

◆日時/2000年3月17日(金) 18:00~20:00

◆会場/東京ボランティア・市民活動センター 会議室

◆テーマ/学習者からの相談への対応

ボランティア日本語教室は日本語学習だけの場ではなく、生活ケアのための場でもあります。そのため、学習者からさまざまな相談等がもちこまれることも多く、対応に苦慮した経験を持つ方もいるのではないのでしょうか。次回は、江戸川ユニオンの宇田川正宏氏を事例報告者に、学習者の相談への具体的な対応について話し合ってみたいと思います。多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

にほんご

ボランティア日本語教室での学習は、日本語学校と違って学習者のニーズもさまざま。そのため既存のテキストや教授法通りにはいかないことも多く、学習者に合わせた工夫も必要です。

アイデア

ここでは、日本語学習者を支援するときに、役立つ教材、理解を早めたアイデア、上達を助けるコツなど、ボランティアの経験から生まれた工夫やアイデアをご提案します。

ボックス

ボランティアからの提案

日本語のレベルアップに役立つアイデア

陳明涓(チンミンチェン) / すみだにほんごボランティア21 (墨田区)

ボランティア教室での日本語学習には、二つのネックがあると考えられます。一つは初級の入門で、もう一つは、ある程度日本語ができるようになってからのさらなるレベルアップです。今回はこの二番目のさらなるレベルアップの部分に注目した、個人的な考えをご紹介します。

ある程度コミュニケーションができるようになるといついその現状に満足してしまい、学習意欲の低下が目立つようになります。一方、意味の理解が容易になったため、繰り返しの代入練習や接続の語尾変換は必要ないと、本人もボランティアも思うようになりがちです。その結果、知っているが使えないというように、日本語のレベルが足踏み状態になってしまう人も少なくないと思います。言い換えれば、このレベルの人たちを対象にするとき、ボランティア側の役目は、無理矢理に文法を教えることでも、雑談で終始することでもなく、まずはいかに相手の学習意欲を引き起こすかが一番重要なのではないのでしょうか。「好きこそ物の上手なれ」と同じように、日本語の学習も楽しいと思えるようになれば、意欲もわき、レベルも自然に上がると考えられます。以下では、この「楽しみながら学習する」という考えに基づいて、い

くつかの例でご説明します。

■■ 様態の「そう」の学習 ■■

様態の「～そう」の場合、イ形容詞とナ形容詞と動詞の接続方法が違うため、練習は欠かせないと考えられます。そして、練習が無味乾燥にならないように工夫したのが「双六文作りゲーム」です。いろいろな単語の基本形を柁目に書いて、双六の要領で停まった柁目の単語を使って、「～そう」の文を作らせます。ゲーム感覚で練習をすれば、知らずに練習量が増え、学習者が作った文からも意味に対する理解が適切かどうかの確認ができます。(右下図参照)

■■ 読み書きの補強 ■■

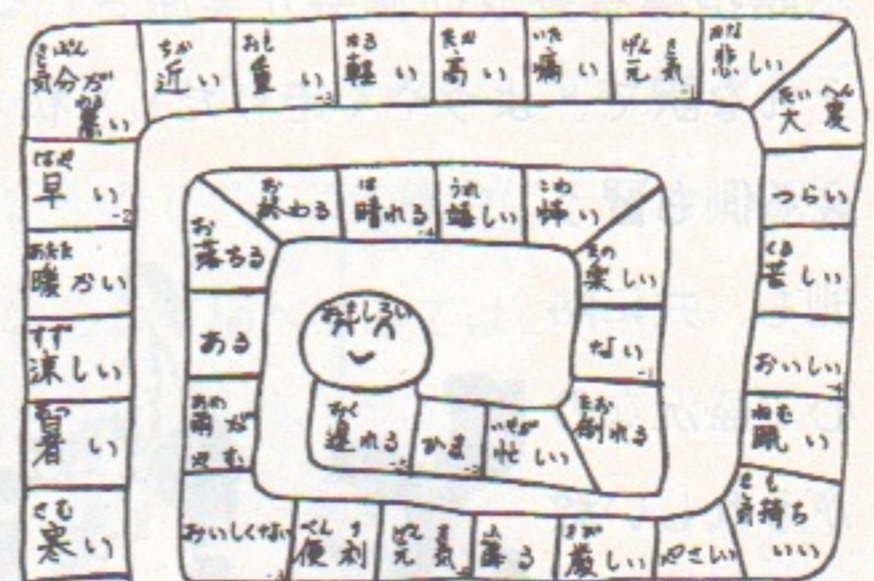
ほとんどの場合は初級入門の時に平仮名や片仮名を教えているのでできるはずだと思いがちですが、実際にはあまり使用していないため、忘れてしまった部分もかなりあると考えた方がいいでしょう。その補強として「聞き書き」も一つのいい方法だと思いますが、より楽しく有意義にするためには学習者用に作られているクロスワードの使用を勧めます。読み書き練習のほか、新しい単語も習得できるので一石二鳥です。

新しい教材を作るのもとても意義のあることですが、時間と効果を考えると、市販されているテキストの有効利用も一つのコツだと思います。ただし、その時はできれば主にするテキストの他に、参考として違うタイプのテキストをいっしょに利用した方がメリハリのある授業ができると思います。

■■ 助詞の学習 ■■

日本語学習者を一番悩ませているのは助詞だと言っても過言ではないでしょう。その助詞を教えるときに、助詞や単語のカードを利用してみるのもいいと思います。教える内容を一通り説明した後、机にカード(名詞、動詞や助詞などがそれぞれに書いてあるカード。できれば色別の方がよい)を広げ、学習者に自由にカードを組み合わさせ文を作らせるのです。

カードを利用したのにはいくつかの理由があります。まずは読みの活動を取り入れて、学習者を漢字や仮名に慣れさせることです。また、ノートに写す時間を省くことで、多くの例を練習することもできます。その上、既習単語にだけ限られないように、新しい単語をその場で見て、聞いて、すぐに使えるという利点もあります。そして、肝心の助詞の学習も、文書を正しく書くストレスから開放されるため、その字の位置に集中することができます。





「発車、OK？」

東村山地球市民クラブ「日本語教室」(東村山市)
宮崎一子

とにかくやってみなければ始まらない!と、1999年6月、TNVNへの入会と前後して、念願だった日本語教室は、市役所の交流室をお借りして、毎週水曜日、夕方五時半から八時半まで、文化交流委員会担当で実験的に開設されました。寄せ集めの教科書、その辺に置いてある辞書等を準備したりで、体制不十分のまま、欲張った希望を満載して見切り発車したのです。

ドアが開いていれば、誰でも出入り自由のサロンの要素を取り入れ、ここに来ればお国のもの同士歓談でき、生活相談や情報交換、さらには、ティータイムで参加者全員で交流できる等、多目的展開を目指しました。

お陰さまで、学習希望者は回を重ねるごとに増え、マンツーマン学習では無理になった時、リタイヤした男性会員が大勢参加してくださり、現在は、彼等のパワーに支えられています。

しかし、スタートして半年、壁にぶつかったのです。本来なら日本語を教えるスタッフを養成してから教室開設をすべきが、順序が逆で、情熱で突っ走った素人ボランティアたちは教え方に行き詰まってしまったのです。スタッフの活躍と悲鳴がやっと役員サイドに認められ、日本語指導者養成研修会が実施される運びとなりました。そんな訳で、ようやく走りだした私たちの会ですが、教える側も習う側も、共に熱心で盛況なのがうれしい教室です。



海外から日本へ来ている人たちのオアシス!

LTC友の会 日本語教室 (杉並区)
山田米代

毎週土曜日の午後、中央線・高円寺駅近くにある杉並第4小学校2Fの開放会議室からは、いったい何が起こったのかと思うほどのザワメキが聞こえてきます。定員50名の会議室にあふれるほどの海外からの学習者と日本人とのマンツーマンでの日本語教室が開かれています。

学習者の希望に合わせて、新聞・雑誌・映画のパンフレット・歌詞カード・コンピュータのマニュアルなどを読むペア、手紙や日記を書いている人、もちろん日本語の教科書を広げているペアもいます。

「日本人と話すチャンスがほしい」「日本の人をもっと知りたい」という学習者。「さまざまな国の人と話す機会があり、世界が広がった」「知らない国に来て懸命に努力している姿に教えられることが多い」「日本語だけでなく、自分の国のことをより深く考えるようになった」という日本人。

LTCは開設して7年目を迎えます。土曜日の他に火・木曜日午前のグループの教室、火曜日午後・木曜日夜のマンツーマンの教室を阿佐ヶ谷で開いています。日本語を学ぶことを基本に、海外から日本へ来ている人たちの小さなオアシスのような存在でありたいと願っています。



かわいい子には旅をさせよ

李賢淑／韓国（弥生日本語の会）

登りました。五合目から見ただけでは滑らかでやさしいかなと思いましたが、登るほどに大変だっ富士山。仲間を見失ってあわてる私たちを親切に助けてくれたおじさん。私には富士山といえば、おそらく頂上での景色ばかりではなく、そこで出会った人たちのことも忘れられないでしょう。

「かわいい子には旅をさせよ」という日本のことわざをこころがけて、あと1年半は旅行と日本人とのつきあいを通じて日本を理解したいです。その経験が私の人生をゆたかにしてくれるに違いないからです。

夫の仕事で日本に行くというのが決まった時、私は内心不安ながらも胸がわくわくしました。そして、昨年4月からはじまった日本での暮らし。なにもかも新たに習う子どものように、毎日毎日が自分には挑戦そのものでした。日本語で話すこと、自転車で買い物すること、道にまよってむだ足をはこんだこと、さまざまな困った出来事がありました。とはいえ、知っている人がいない外国での生活は、以前よりももっとゆうかんに積極的に変わっている自分を見つけました。

去年の夏、夫と彼の仲間とともに富士山に

私は現在中央大学法学部大学院に在籍しています。5年前に北京から来日し、帝京大学に入学して、まず留学生別科で半年間日本語の集中教育を受けました。これで日常生活は勿論のこと、講義の受講も何とかこなせるようになりました。しかし、もっと深く日本語を理解できるようになるために、大学の掲示板で存在を知った「八王子にほんごの会」に指導を求めました。

最初は中級日本語のテキストを用いた読解から始めました。私は漢字の国から来たのですから、日本語の文章を見れば意味は大体理解できます。しかし読みかたにはとても悩まされました。同じ漢字でも幾通りもの読み方があるからです。また、中国語と異なる使い方の漢字が多くあり、注意が必要でした。

次は新聞記事をテキストにしての読解です。新聞記事を理解するためには、単に文章とし

て理解するだけでなく、日本の社会と歴史が分からなければなりません。その点、先生の説明はとても詳しく適切で分かりやすかったので、日本の社会や文化に対する理解がとても深まりました。

大学2年生のとき、日本語能力試験1級に合格しました。また、3年生のとき八王子市主催の外国人による日本語スピーチ大会に出場して賞をもらいました。これらの事によって、日本語の能力に少しは自信が持てるようになりました。4年生の間は、大学院受験を対象にした文献の読解を手伝ってもらいました。大学院入学後は、ゼミナールへの発表文とかレポート作成など作文の能力向上についてアドバイスを頂いています。こうして、日本の社会、歴史、文化について得られたものは計り知れず、先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

日本語の勉強

宋晶／中国（八王子にほんごの会）

2000年。私が日本語ボランティアを始めて7年目に入りました。そして私自身でも感心するのですが、水曜日の夜7時から9時すぎまでの時間帯を毎週通い続けています。でもこれは私自身の力だけではないことを、私自身が一番よく知っています。最初から在籍している二人の学習者が、私のよき理解者であり協力者だからです。

私の所に集まって来る人たちは、ほとんどが日本人を夫に持つアジアの女性で、中学生・小学生・幼児の母親です。水曜日は早めに夕食を作り、子供たちに食べさせ、夫の帰りが間に合わない時は子供を連れて、区民センターに集まります。夜ということでボランティアが足りなく、手のまわらない状態の中で一人一人にしてあげ

られる日本語学習はほんの少しでも、来てくれるのです。私は彼女たちのために、今何が必要なのかをたしかめながら精一杯頑張っています。

私は昨年末、老人検診で腎臓ガンが見つかり右の腎臓を1つ取りました。幸い早期発見で、抗ガン治療もなしで4週未満の入院で退院し、次の週からボランティアに復帰することができました。その間彼女たちの心遣いには、ほんとうに感謝するばかりでした。早い術後の回復も、私の気力の維持もボランティアを続けているおかげと信じているこの頃です。「顔を見せてくれるだけでいい」「話相手になってくださるだけでいい」と彼女たちは、私に言ってくれます。この言葉に甘えて私はきっとこれからも日本語ボランティアを続けることでしょう。

日本語ボランティアを継続して

小川伶子（初歩日本語）

足立日本語教育を考える会

●連絡先/妹尾 久美子 TEL/FAX:(03) 3887-6714

現役教師とボランティアが協力して 外国人の子どもの学習をサポート

日本に在住する外国人数の増加にともなって、日本の小・中学校で学習する子どもたちの数も増加しています。成人した外国人が日本語を学習するための場としては、日本語学校やボランティア日本語教室、さらに夜間中学校の日本語学級などがありますが、子どもたちのための日本語学習の場はまだ限られているのが現状ではないでしょうか。

今回は「足立日本語教育を考える会」をお訪ねして、代表の妹尾久美子さん、足立区立第四中学校夜間学級日本語学級の関本保孝先生にお話をうかがいました。

||| 教育システムの違いが学習の障害に

現在、都内には公立中学校夜間学級が8校あります。このなかのひとつである足立区立第四中学校夜間学級では、日本語学級が3クラスあり、40数名の学習者を6名の教諭が担当。関本先生は1978年度からこの日本語学級に関わっています。当初は中国帰国者が多かったことからすべての希望者を夜間中学に受け入れていましたが、学習者のレベルの差が生じたことから、1980年代前半に全国社会福祉協議会に日本語教室を作る要望を提出。翌年、東京都社会福祉協議会にその要望が受け入れられて日本語教室が誕生しました。夜間中学校にきた学習者のなかで中学卒業レベルの人にはその日本語教室を紹介して、

夜間中学校との連携をはかっています。

この日本語教室によって学習者のレベル差は解消しましたが、今度は新たに学齢超過者の入学受け入れ拒否の問題が生じました。学齢期を過ぎた外国人の子どもたちが年齢超過を理由に昼間部の中学入学を断られ、その結果、夜間中学に救いを求めてくるようになりました。入学時期の違いや小学校入学年齢の違いなど、国による教育システムの違いによって、日本では学齢超過と判断される子どもたちも多いそうです。

東京都教育委員会では、中国帰国者などの家族については中学年齢の3歳超過までは中学入学の受け入れは妥当と判断していますが、このことが区や学校に十分に周知徹底されていないとのこと。また、その他の外国人に対しては、区市町村教育委員会が日本語能力・学校の収容能力・他の生徒への影響等を考慮して判断しているのが現状です。

||| 外国人の子どものための教育で困ること

現在、足立区には1万7千名・90カ国の外国人が居住し、小・中学校では882名の外国人の子どもたちが学習しています。足立区教職員組合では1998年6月に「帰国者・外国人児童生徒に関するアンケート」を実施。足立区の公立小・中学校、全117校のうち40.2%にあたる47校から回答を得ました。そのアンケートのなかからいくつかを紹介します。(右ページ参照)

6割近くの学校で、帰国者・外国人児童生徒の指導で「困っていることがある」と回答しており、実際、彼らが日本での生活でさまざまなトラブルを起こすことも多いそうです。このことを踏まえ、日本語学級では彼らに適した日本語の自主教材だけでなく、日本語の習慣・制度・社会等の自主教材も作って指導しています。また、夜間学級では若い生徒が少ないことから、同年代の子どもたちといっしょにクラブ



妹尾さん(左端)と関本先生(右端)



活動や交流をしたいという子どもたちの願いを叶えてあげたいとのことでした。

日本語ボランティアとの協力で 日本語学級が誕生

1993年に開設された日本語学級の運営には足立区立第四中学校夜間学級の教諭などが関わり、当初は応募者が多数だったため、まず初級レベルを対象としてスタート。現在は、(財)足立区教育振興公社が主体となって日本語学級を運営しています。

その後、中級レベルの人々を対象とするために、1998年4月、日本語学級の教諭が区内の日本語ボランティアに協力を要請して「足立日本語教育を考える会」を結成。区の社会教育団体として登録し、6月には近隣の小学校を会場に中級日本語教室を開設しました。さらに、8月には帰国者・外国人の子どもたちの夏休みの宿題のサポートや交流を目的に「サマースクール」を5日間にわたって開講。夜間中学の教諭・生徒・退職教員・日本語ボランティア・学生など26名のボランティアが17名の小・中学生と学習や交流をしました。

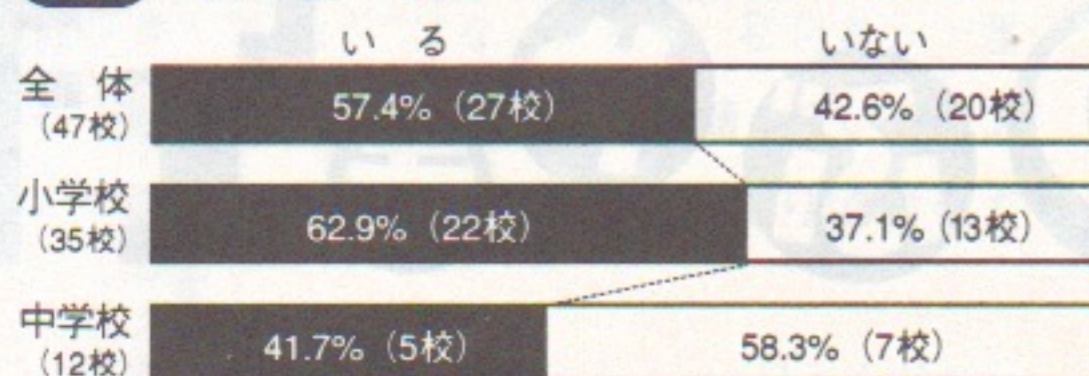
このサマースクールが好評だったことから、10月

から隔週で「土曜スクール」を開設、1999年2月からは毎週開講するようになりました。ここでは日本語の学習以外にも、行事を通してのお楽しみ会や浅草に遊びに行ったりと交流を深めています。また、今年1月には区国際交流課からの依頼で「餃子を作る会」も実施しました。

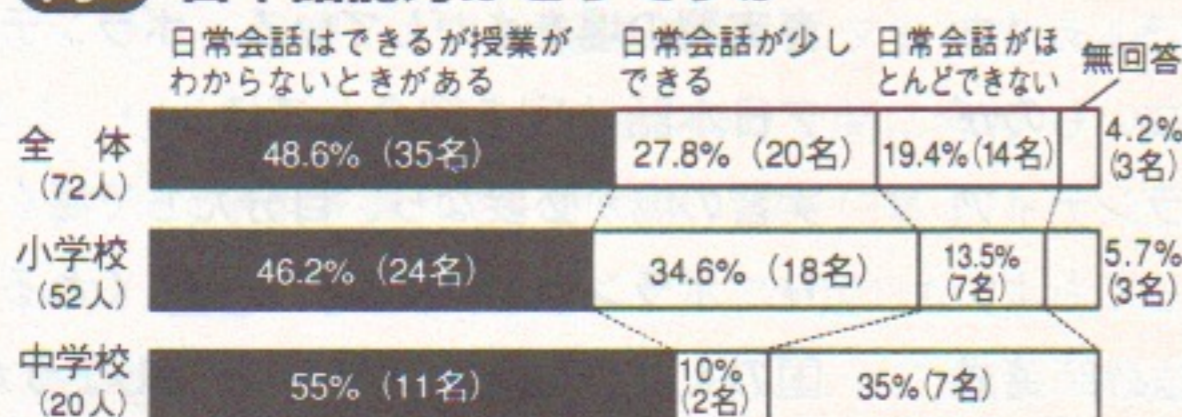
今後は、もっと多くのボランティアに参加してもらい、活動を広げたいということで、ボランティアを募集中だそうです。そして、この活動を継続する上で大切なことは、子どもたちにも言えることですが、連絡もなしで来なかったりするような参加の仕方では困るということ。また、いまだに「外国人＝欧米系＝英語＝国際交流」と勘違いしているような人も多いため、日本にはアジア系外国人が多く在住しているという事実を認識した上でボランティアとして参加してほしい、とのことでした。

外国人の子どもたちをめぐるいじめや不登校など、まだまだ多くの問題がありますが、まずは足立区に外国語による相談窓口の開設を要請。問題解決にむかって行政と話し合いながら前進し、日本人と外国人の多文化共生社会に一步でも近づければ、と意欲的でした。

問1 帰国者・外国人児童生徒はいますか



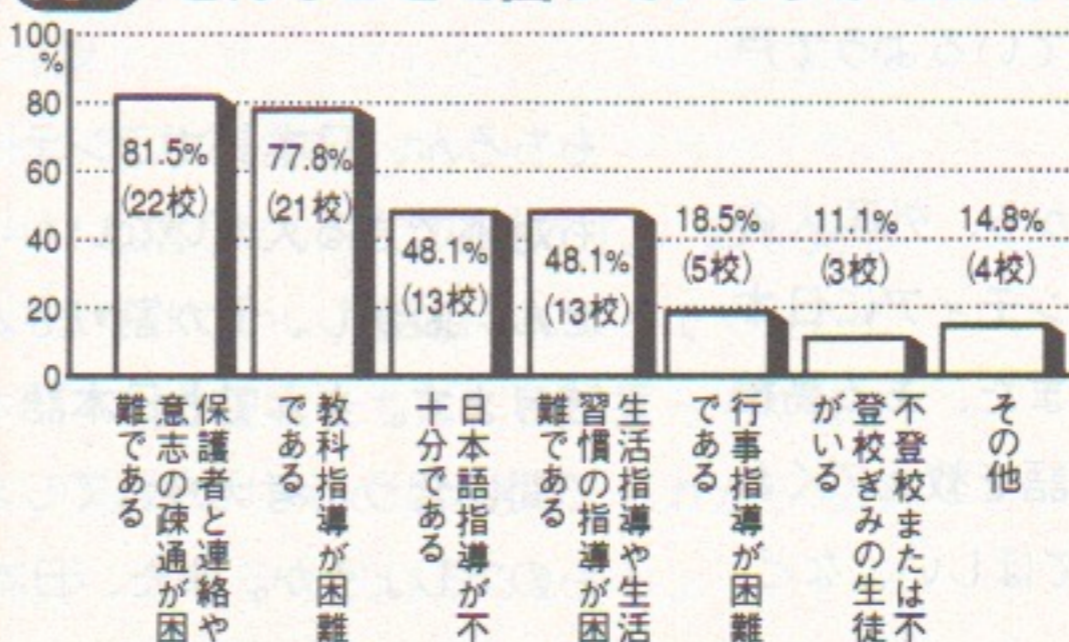
問2 日本語能力はどうですか



問3 帰国者・外国人児童生徒の指導で困っていることはありますか



問4 どんなことで困っていますか (複数解答可)



規則の例外と例外の規則(3)

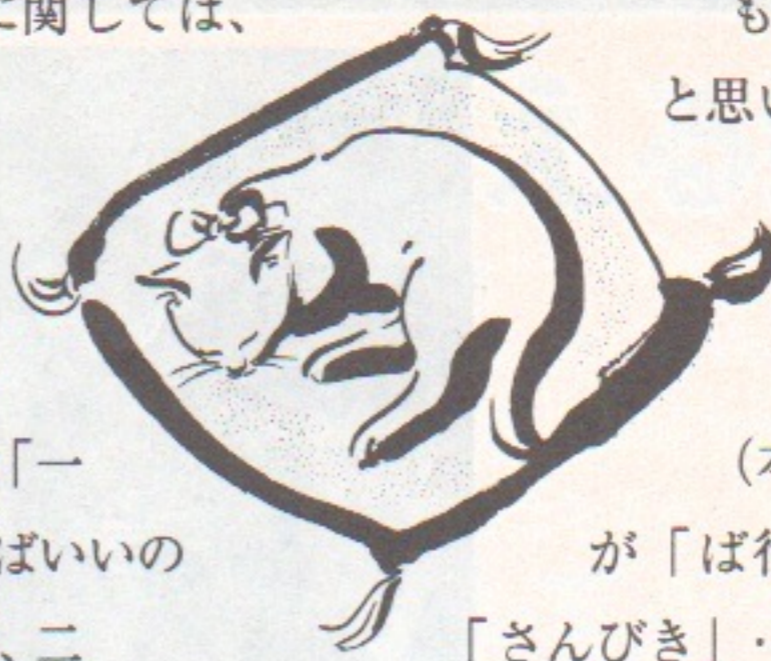
正しい日本語とは何か

日本大学講師 福田知行

前回述べた助数詞の問題に関しては、私は次のように考えています。

まず、どういう名詞にどういう助数詞が付くかという問題は、非常に単純化して考えれば、「一つ、二つ…」または「一個、二個…」を覚えておけばいいのではないかと思います。「一個、二個…」は漢語系で固い感じがあるので、女性なら和語系の「一つ、二つ…」を使ったほうがいいかもしれません。たとえば、若い人のなかには「『三個』年上だ」のような言い方をする人がいますし、「鉛筆を三つください」と言ってもそれほど問題がないだろうと思えるからです。ただし、これらは人間に対して使うと非常に失礼な感じになるので、それ以外に「一人、二人…」だけは覚える必要があるでしょうが…。つまり、助数詞に関しては最小限「一つ、二つ…」(または「一個、二個…」)と「一人、二人…」を覚えておけばいいことになります。あとの助数詞は余裕があるときに一つずつ覚えていくという方法はどうでしょうか。

次に、助数詞の発音ですが、これも大体の規則(左下の表)を教え、あとは例外としたほうが(多少の間違いはあったとして



も)覚えるのに負担が少ないと思います。

この表の見方を説明します。【3】の場合は、次に「は行」で始まる助数詞(本・匹など)が来ると「は行」が「ば行」に変わり(「さんほん」「さんびき」…)、【6】の場合は「か行」で始まる助数詞(個・階など)が来ると「ろく」の「く」が「っ」になり、「は行」で始まる助数詞(杯・匹など)がくるとさらに「は行」が「ば行」になるという意味です。【1】【8】【10】では次に「か行」「さ行」「た行」「は行」で始まる助数詞が来ると「いち」「はち」の「ち」と「じゅう」の「う」が「っ」になり、さらに助数詞が「は行」で始まっていれば「ば行」に変わるということを表しています。

最初見ると難しそうですが、これだけ覚えておけば「あとは例外」なので、ずいぶん楽になるはず。さらに、この表は将来、漢字熟語を覚えるときにもその威力を発揮するので、覚えておいても決して損はないものです。

今回は、さらに助数詞の例外の扱い方と漢字熟語の話をしたしたいと思います。

【3】さん+(h-)→さん+(b-)	【1】いち	+	$\left. \begin{array}{l} k- \\ s- \\ t- \\ h- \end{array} \right\}$	\rightarrow	$\left. \begin{array}{l} k- \\ s- \\ t- \\ p- \end{array} \right\}$	+	$\left. \begin{array}{l} k- \\ s- \\ t- \\ p- \end{array} \right\}$		
【6】ろく+	【8】はち							いご	はご
	【10】じゅう							じ(ゅ)ご	

TNVNでは、「日本語ボランティア」とは、「言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援する活動」で、専門的な知識や経験を持たなくても活動に参加できるとしていますが、最近いろいろなところで日本語ボランティアが頼りにされているようで戸惑っています。

たとえば、ある小学校から、外国人の子どもが入ったのでボランティアに日本語を教えに来てほしい、また、ある高校からは交換留学生に日本語を教えてくれるボランティアを紹介してほしい、など。

もちろん、日本語ボランティアのなかにも対応できる人がいないわけではありません。しかし、何か割りきれないものが残ります。なんでも日本語ボランティアで間に合うと考えられてしまってもよいのでしょうか。また、日本語教師養成

校や大学の日本語教育学部などから、教育実習の場をさがしている、ボランティア日本語教室を紹介してほしい、など。実習の場が必要なら、自分たちで場を作り、ボランティア生徒になってくれる外国の人たちを探してはいかがでしょうか。



日本の常識

Common sense in Japan

第8回 家族の“しるし”

1人にひとつずつ姓と名があるように、日本では家族にも“家紋”というしるしがあります。日常の生活のなかで家紋を目にする機会は少なくなりましたが、家族の顔でもある“紋”の意味について考えてみましょう。

家紋の始まり

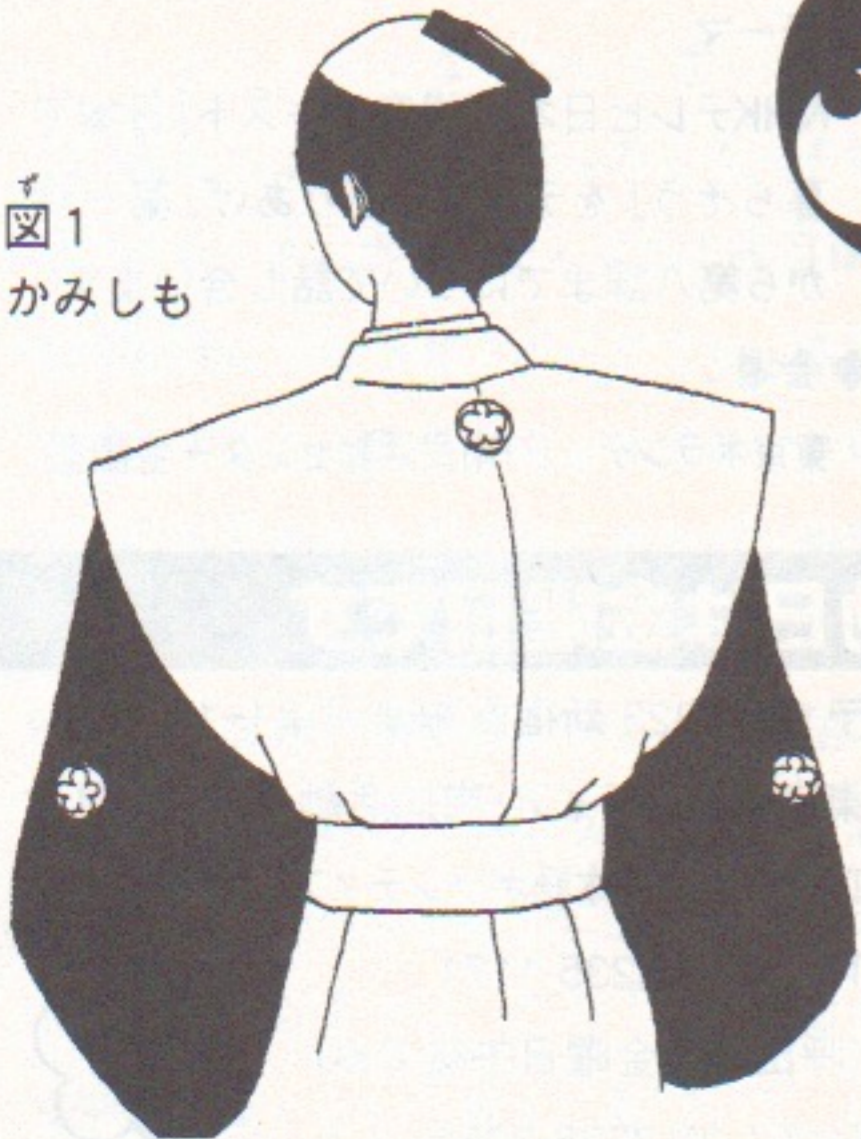


近年では使う機会が減ったため家紋を意識することは少なくなりましたが、

日本では家ごとに独自の

紋が存在します。この家紋が誕生したのは平安時代のことです。この頃、朝廷に仕えた公家たちは、牛車を使用していました。朝廷に参上する時にはたいへん混雑し、自分の牛車を探すのに苦労したことから、他家の牛車と区別するために目印を描き始めたことが、家紋の起源です。

図1
かみしも



やがて、この模様は、家族の衣服や調度品にも付けられるようになり、家の“しるし”になりました。

その後、公家から生まれた家紋は、武士にも広まっていきました。なじみのあるところでは、テレビの時代劇で目にする、戦場で敵と戦う時に使用する家紋の入ったのぼり旗や、かみしも(図1)に入った紋でしょう。時代を経るごとに色彩が鮮やかになり、紋のデザインも多様化していきまいた。



庶民への普及

江戸時代に入ると、徳川幕府が庶民に名字の使用を禁止してしまいました。しかし、家紋については制約がなかったことから、自分を名乗る手段としてあつという間に家紋は庶民の間に広がっていきました。そして時代が明治に入ると、家紋は企業の顔である“社章”や学校の“校章”へと発展していったのです。

現代でも身近で家紋の使用が色濃



図2
黒留袖

く残っている例としては、やはり冠婚葬祭のための和服でしょう。結婚式などで目にする黒留袖(図2)、訪問着、喪服など、紋付きの和服は礼服として私たちの暮らしに欠かせないものです。日常ではあまり目にする機会が少なくなったとは言え、日本人の間には大切に受け継がれているのです。この機会に、自分の家紋について調べてみてはいかが？

MARIKO MATSU
イラストレーション

NETWORK INFORMATION

日本語ボランティア入門講習会

これから日本語ボランティアを始めたい方のための「日本語ボランティア入門講習会」は、日本語ボランティアに役立つ基礎知識の講座です。初めて日本語ボランティア活動に参加する方は、ぜひ受講してください。どの回からでも受講可能で、全4回を受講された方には修了証をさしあげます。

◆日時

- 3月10日(金) 午後2～4時
- 3月24日(金) 午後6～8時
- 4月14日(金) 午後2～4時
- 4月28日(金) 午後6～8時
- 5月12日(金) 午後2～4時
- 5月26日(金) 午後6～8時
- 6月9日(金) 午後2～4時
- 6月23日(金) 午後6～8時

◆テーマ

- (3月) 日本語ボランティアとは
- (4月) 日本語再発見!
- (5月) 学習者はどのような人々か
- (6月) どのように日本語学習を支援しているか

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター 会議室
(JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分)

◆参加費

1回 600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

日本語ボランティア相談

日本語ボランティア相談窓口では、日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。お気軽にご利用ください。

◆日時/毎週金曜日 午後2～7時

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター

◆電話でご確認の上、おこしてください。

TEL: 03-3235-1171(呼出し)

TNVNの活動情報へ パソコンでアクセス!

インターネットのTNVN活動情報にアクセスして、日頃の活動にお役立てください。また、TNVNへの要望や意見などもお待ちしております。

<TNVNホームページ>

TNVNの講習会など活動情報や教室ガイドの情報も掲載しています。

TNVNへの入会を 希望する方は…

TNVNの会員として入会を希望される方は、まずTNVN事務局までTNVN活動・入会案内を請求してください。(活動・入会案内のみを希望する場合は送料として80円切手、ニュースレターと入会・活動案内の場合は90円切手を同封の上、郵便にてお申し込みください)

TNVNの会員は、日本語ボランティア活動をしている団体が正会員、日本語ボランティア活動に関心のある個人が協力会員となります。入会される場合は、申し込み用紙に必要事項を記入してTNVN事務局まで郵送またはFAXし、あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回TNVNニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費/正会員 年会費 3,000円

協力会員 年会費 2,000円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号 00100-1-719259

(通信欄に『年会費』と記入)

◆URL: <http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/>

◆MAIL ID: tnvn@t3.rim.or.jp

※なお、上記のホームページにボランティア募集やイベント参加者募集などの情報掲載をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

「日本語学習支援研究会」 「生活支援研究会」のご案内

TNVNでは昨年「日本語学習支援研究会」と「生活支援研究会」の活動をスタートしました。日頃のボランティア日本語教室での活動で培われたノウハウや情報を持ちより検討することによって、みんなの財産にしていくことを目的とした研究会です。それぞれの活動に関心がある方のご参加をお待ちしています。

<生活支援研究会>

◆活動日/3月10日(金) 16:00～17:30

(今後の活動日・時間については、この日の話し合いで決定)

◆テーマ/外国人にかかわるさまざまな生活ケアに関して、まずこれまでの相談やその対応の事例を収集していく予定です。

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター 会議室

<日本語学習支援研究会>

◆活動日/3月24日(金) 14:00～16:00

◆テーマ

NHKテレビ日本語講座テキスト『日本で暮らそう』をテーマにとりあげ、第一課から第八課までについて話し合います。

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター 会議室

TNVN事務局の活動日は金曜日です

TNVN事務局の活動日が毎週金曜日になりました。毎週金曜日午後2～7時まで、東京ボランティア・市民活動センターで活動をしています。

TNVNへのご連絡・お問い合わせ等は、右記までなるべく郵便かFAXをお願いします。

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター 気付

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

TEL: 03-3235-1171

(呼出し/金曜日午後のみ)

FAX: 03-3235-0050



第41回外国人による 日本語弁論大会出場者募集

- ◆日時/6月10日(土)午後1時開始
- ◆会場/長崎市長崎ブリックホール
(長崎市茂里町2-38)
- ◆テーマ/自由7分以内
(ただし伝道・宣伝は不可)
- ◆出場資格
 - ①母語が日本語以外
 - ②大会当日年齢15歳以上
 - ③過去の本大会で1位・外務大臣賞・文部大臣奨励賞を受賞していないこと
- ◆応募書類等
 - ①所定の申込用紙に記入したもの
 - ②スピーチを録音したカセットテープ
 - ③スピーチ原稿(A4の用紙にワープロ打ちまたは手書き)とそのコピー2部
 - ④顔写真3枚
- ◆応募締切/4月20日(木)午後5時必着
- ◆問い合わせ
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-21
国際教育振興会
「第41回外国人による日本語弁論大会」係
03-3359-9600 (月～金10時～18時)

日本語学習者 日本語ボランティア、募集!

TNVN会員団体のビバ日本語教室では、日本語を学びたい学習者と学習を支援するボランティアを募集しています。

- ◆活動時間
(新橋) 毎週水曜日 18:30～20:00
(白金台) 毎週木曜日 10:00～11:30
- ◆会場
(新橋) 港区立生涯学習センター
JR新橋駅烏森口より徒歩3分
(白金台) 港区立白金台福祉会館
JR目黒駅東口より徒歩15分
- ◆問い合わせ・申し込み
ビバ日本語教室(林川 玲子)
TEL: 03-3473-5088
FAX: 03-3473-5097

「ランゲージエキスポ2000」開催

- ◆日時
3月25日(土)・26日(日) 10:00～18:00
- ◆会場
新宿NSイベントホール(NSビル地階)
JR新宿駅西口より徒歩10分
- ◆入場料
500円(税込み/1日券/学生は無料)
- ◆内容
日本語に関する各種セミナー、公開模擬授業、クイズ等のアトラクション、交流広場など
- ◆主催
Language EXP2000実行委員会
株式会社アルク
- ◆問い合わせ
ランゲージエキスポ運営事務局
TEL: 03-3323-4788
(9:00～17:00/土・日・祝日を除く)
- ◆URL:<http://www.alc.co.jp/vle>
- ◆TNVN会員団体の方には無料招待券をプレゼントします。ご希望の日本語ボランティア団体は下記まで、団体名と希望枚数をお知らせください。
TEL: 03-3323-0062
(『月刊日本語』編集部 新城)

「ボランティア日本語教室ガイド」 頒布中!

新しい教室や変更情報をまとめた改訂版もプラス。ご希望の方は、東京ボランティアセンターの窓口へ直接おこしいただくか、郵便振替で料金をお払込みください。入金を確認次第、郵送します。

- ◆頒布価格(実費)
1冊600円
郵送希望の場合は送料込み1000円
- ◆払込み先
郵便振替口座番号 00100-1-719259
(通信欄に『教室ガイド』と記入)
- ◆加入者名
東京日本語ボランティア・ネットワーク

日本語ボランティア、募集!

北区の中央公園文化センターで活動しているTNVN会員団体の「国際交流日本語のなかま」と「日本語ともの会」では、日本語学習を支援するボランティアを募集しています。

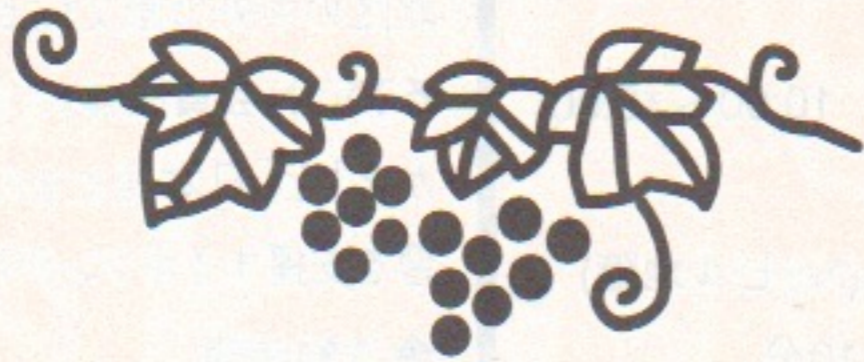
- ◆活動時間
 - ①「国際交流日本語のなかま」
毎週火曜日 19:00～21:00
 - ②「日本語ともの会」
毎週木曜日 19:00～21:00
- ◆会場/北区立中央公園文化センター
JR京浜東北線王子駅より徒歩14分
JR埼京線十条駅より徒歩14分
- ◆会費/無料(交通費は自己負担)
- ◆問い合わせ・申し込み
 - ①河田幸男 TEL: 03-3900-4586
 - ②山本敬子 TEL: 03-3914-4065
(活動時間内に直接会場にいらしても歓迎します)

「入管法改定Q&A」ができました!

みなさんもお存知の通り入管法が改定され、2月18日から施行されました。分かりにくい点も多いと思われるので、よくある質問を集めた「入管法改定Q&A」を作成しました。日本語、英語、中国語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語、ウルドゥー語、インドネシア語、タイ語、ルビ付き日本語版があります。必要な方は、下記までお問い合わせください。一部の言語については、ホームページからPDFファイルでダウンロードすることもできます。なお、郵送ご希望の方は、切手代等実費をご負担ください。無理な方は相談に応じます。

- ◆問い合わせ・申し込み
移住労働者と連帯する全国ネットワーク
TEL: 03-3207-7801/FAX: 03-3207-7803
〒169-0051 新宿区西早稲田2-3-18-24
- ◆e-mail: fmwj@jca.ax.apc.org
<http://www1.odn.ne.jp/cbj25780/Q&A/campaign.htm>

BULLETIN BOARD



TNVN日本語ボランティア入門講習会が月曜日から金曜日になり、何回か担当したり事例発表をするようになりました。日本語ボランティアというものに関わって8年目、TNVNに関わって7年目。毎日の活動のなかで学習者が日本語を学ぶことにより、地域での生活がよりスムーズにできるように、言葉の壁からくるストレスや摩擦が少しでも減るように、どうしたらより効果的に理解し、使えるようになるか、また、より楽しく続けていけるかを考えています。

TNVN事務局での仕事は、各活動団体からのボランティアが互いに時間をやりくりし、当番制でしています。会場の鍵開けから始まり、郵送された問い合わせや資料や情報などを整理・記録し、それについての対応も今どんなことが行われているのかが分かるように記録しています。そ

の間、ボランティアについての問い合わせに答えたり、入門講習会の準備やニュースレターの準備と発送など細かいところまで気を配り、会員及び団体の活動が円滑にいくよう地道な努力を続けています。使った部屋を片づけて鍵をセンターに戻すまで、手はもちろんのことお互いの情報交換をしながら実に淡々と手際よくこなしています。

この事務局の活動にほんの少しですが関わってみて、感じたことがあります。とても楽しいんです。自分の抱えている問題が、情報交換や先輩や仲間のアドバイスで解決したり、先が見えてきたり、とても勉強になります。このような経験はもっとたくさんの人にしてほしいと思います。事務局は毎週金曜日に活動しています。より多くの人の参加を望みます。

山本 敬子 (TNVN運営委員)

地域の日本語ボランティア事情

文京区発

文京区には70か国5500人の外国人が住んでいます。人口の3.2%ですので、他区に比べると多い方ではないようです。そのため外国人のためのプログラムも充実しているとはいえません。文京区国際友好交流協会は1984年に設立されました。外国人のために、日本文化を紹介する講演会や講習会の開催（お茶やお琴の体験・おりがみを折るなど）、日本庭園・江戸東京博物館・国会議事堂などを巡るバスハイク（年3回）、交歓料理教室などの国際親善事業を行っています。そして年3回（4月・9月・1月）10回ずつの初級日本語教室も開催しています。

区内には3カ所の日本語ボランティア教室があります。周辺には大学がたくさんあ

り、留学生やその家族が多く訪れるのが特徴です。日本人と話す機会が少ないと会話を希望する人、文法をきちんと勉強したい人—学習者は、ニーズに合わせて教室を選んでいるようです。もちろん掛け持ちで通っている人も。もっと他に教室はないかと熱心な学習者から聞かれるたびに、教室がもっと増えればと思います。個人で活動している方もいるようですが、ボランティア同士の連絡がなかなかとれないのが実状です。

今後は、区とボランティアグループ間の連絡を密にし、情報交換、協力がもっとできたらよいと思っています。

大久保 澄子 (弥生日本語の会/文京区)

SPECIAL THANKS

★足立日本語教育を考える会様
 快く取材に応じていただきました。

メディアに見る TNVN情報

- ◆エーアイ出版発行
 『ぼけっと★ホームページガイド』
 TNVNホームページの紹介
- ◆アルク発行
 『月刊日本語』2000年3月号
 ネットワーク活動の案内

WELCOME!
 新入会員のご紹介

- ◆正会員(団体)
 - あいあい (足立区)
 - 日野市国際交流協会 (日野市)
 - あいうえおの会 (日野市)
 - ともだち (足立区)
 - ◆協力会員(個人)
 - 後藤 諭利、塚本 眞理枝 (敬称略)
- 2000年2月20日現在の会員数は、正会員74団体・協力会員76名・賛助会員10です。

編集後記

●TNVNは今、新しい『ボランティア日本語教室ガイド』のアンケートの集計や編集作業の最中。利用しやすいガイドブックを、いかに効率よく、しかもコストのかからない方法で作成できるか、メンバーの能力やアイデアを駆使して取り組んでいます。今後の作業にどうかご協力をお願いします。



発行人/中田 紀子
 編集人/前田 恭子
 レイアウト/鶴田 環恵